

2020年3月期通期 連結決算報告 (2019年4月1日～2020年3月31日)

- 2020年3月期は、為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期において新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響、個別開示項目費用計上により、減収減益
- 2021年3月期は、COVID-19による需要急減の影響を受けるも、経済活動再開により5月以降徐々に需要回復を想定。流動性を確保しながら、現金支出最小化・追加改善施策に取り組み
- 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。
中期的にはアセットライトな事業体質への変革

2020年3月期は、為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期において新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響、個別開示項目費用計上により、減収減益

- グループ売上高は5,562億円。為替変動の影響に加え、主要地域の事業環境悪化により減収（前年6,128億円）。為替の影響を除けば、前年比5%の減収
- 無形資産償却前営業利益は230億円。建築用は欧州を中心に事業環境のさらなる悪化と稼働率の低下、自動車用は欧州の数量減に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減益（前年388億円）。一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調

	売上高		無形資産償却前営業利益	
	FY2020	FY2019	FY2020	FY2019
建築用ガラス事業	2,337億円	2,473億円	173億円	258億円
自動車用ガラス事業	2,810億円	3,147億円	61億円	151億円
高機能ガラス事業	401億円	491億円	71億円	81億円

- 親会社所有者に帰属する当期損失は189億円（前年133億円の利益）。営業利益と持分法投資利益の減少に加え、個別開示項目として、フロート窯などの設備休止に関する費用、のれんおよび無形資産の減損損失、COVID-19関連費用等を計上したことによる

2021年3月期は、COVID-19による需要急減の影響を受けるも、経済活動再開により5月以降徐々に需要回復を想定。流動性を確保しながら、現金支出最小化・追加改善施策に取り組み

- 2021年3月期通期業績予想は新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定
- 当面の流動性は確保。追加の流動性資金の調達に向けて協議中
- 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み
 - 重要案件を除き、可能な限り投資を凍結（アルゼンチンの新設も凍結）
 - 稼働調整の最適化により原燃料節減・レイオフ実施。公的補助金も利用
 - 役員報酬返上も含め、支出・コスト削減を徹底
 - ノンコア資産売却や運転資本改善施策は継続検討、実施
 - 千葉・マレーシアなどの設備休止による固定費削減効果、加えて堅調なソーラー需要にも期待
 - 追加施策の迅速な実施に向けて準備中

既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。中期的にはアセットライトな事業体質への変革

- 財務安定の回復が喫緊の課題。収益改善とキャッシュフロー創出に取り組む
- リーンでアジャイルな事業体制へ転換し、大きく変化する「コロナ後の世界」で事業機会を捉える
- 新中期経営計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を見極めて公表予定

<2020年3月期通期 連結決算説明資料より抜粋>

連結損益計算書		NSG GROUP			
営業利益はほぼ修正予想に沿った着地。一方で個別開示項目費用が増加					
(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正予想 (Q3決算時)	2020年3月期 実績	前年比 増減	予想比 増減
売上高	6,128	5,600	5,562	(566)	(38)
無形資産償却前営業利益	388	230	230	(158)	0
償却費*	(19)	(20)	(18)	1	2
営業利益	369	210	212	(157)	2
個別開示項目	(71)	(70)	(240)	(169)	(170)
金融費用(純額)	(133)	(130)	(118)	15	12
持分法による投資損益	62	20	11	(51)	(9)
税引前利益/(損失)	227	30	(135)	(362)	(165)
当期利益/(損失)	144	(20)	(175)	(319)	(155)
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	133	(30)	(189)	(322)	(159)
EBITDA	647	-	550	(97)	-

*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告 7

今後を見据えてのアクション		NSG GROUP	
1. 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存事業のコスト構造の変革、VA戦略の加速により早急に収益力の改善を行う ・ 成長分野および新規事業分野の拡充を図り、早期の収益貢献を実現する ・ 合わせて、間接経費の削減、投資抑制、ノンコア事業・資産の売却により、有利子負債の削減を図る ・ 以上の施策により、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す体質を回復する 		
2. 中期的には、アセットライトで景気変動に強い事業体質への構造変革を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コロナ後の世界」を見据え、継続・拡大させる事業と見直す事業を明確にし、事業構成を変えていく (健康、衛生、環境などにかかわる価値をより重視。太陽光・熱発電、省エネ、抗菌・抗ウイルス、遺伝子検査、テレワーク、カメラ、センサー、情報通信などの分野でのガラスのケース拡大に対応) ・ アセットライトなコスト構造、マーケットオリエンテッドな商品開発・販売体制を構築する ・ ICT(情報通信技術)を活用し、リーンでアジャイルな組織を目指す 		
3. 新中期経営計画は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響を見極め、上記方針を織り込んだ上で公表予定			

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告 19

決算関係問い合わせ先:

● IR部: 03-5443-0100

報道関係問い合わせ先:

● 広報部: 03-5443-9477